

## 第5回 豊橋市市民協働推進審議会 議事録

日時	平成26年1月29日(水) 13:30~15:00
場所	豊橋市役所 災害対策本部室(西)
報告者	鈴木啓靖
出席者	別紙のとおり
傍聴者	なし

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

○議事録署名者 瀬川千敏委員、惣田里美委員

### 3 議題

#### (1) 市民協働推進計画の進捗状況について

※資料1に基づき、事務局が説明

**委員:** (1) ①の小中学生への基礎授業について、毎年3~4校では少なく、全校区終わるのに何十年もかかってしまう。一気に実施できる方法はないのか。教育委員会など庁内で連携して、学校に授業として取り入れてもらえないか。

**委員:** (1) ②の地域人材育成講座の開催について、対象が自治会長だと高齢の人ばかりになってしまうので、青年会議所などの豊橋をもっとよい町にしたいという若い人にも参加してもらった方がよいと思う。

**委員:** 自治会長が聞いて終わりではなく、地域スタッフへとつながるとよいのでは。

**委員:** (1) ⑤の職員の市民協働研修について、受講した職員がその後どれくらいボランティア活動に参加したのかが分かるように、人数を指標として入れてはどうか。

**事務局:** 市職員に対しては受講後にアンケートを取っており、その回答を反映させてより実践的なワークショップ研修にするなど、内容の見直しをしながら進めている。また、平成20年度には、地域の活動などに市職員がどれくらい参加しているかアンケートを取っており、今後も同様のアンケートを実施することによって、職員の参加率がどう変化したのか、研修の成果を図ることができると考えている。

**委員:** (2) ⑤の市民活動情報の提供について、無料情報誌とはどういったものを想定しているのか。

**事務局:** 例をあげると、Hanamaru や SUPLi などの無料情報誌と連携できないかと考えている。

**委員:** そういった情報誌は、向こうから載せさせてほしいと言っていただければ無料だが、こちらから載せさせてほしいというとなってしまう。

**委員:** 市民が一番手に取って見ることができるものというのと、やはり広報とよはしが

一番だと思う。ただ、先日配布された1月15日号のわくわく活動ひろばにトヨッキー基金のPR記事が載っていたが、今ひとつ記事の目的が伝わらなかった。基金への寄附を増やしたいのであれば、広報の4ページくらい使って大々的にPRするなどできないのか。

**事務局：**広報の特集ページとして掲載することは可能。ただし、広報も紙面が限られているので、掲載にあたっては調整が必要となる。そんな中でわくわく活動ひろばのように、広報の紙面をコンスタントに割り当ててもらえているのは実は稀なケースだが、委員のご意見のように、読んだ後に記憶に残るように文章や見出し、デザインの作り方に工夫が必要だと思う。

**委員：**(2) ④のホームページでの自治会の情報提供について、今はホームページを見に行かないと情報が得られないが、最近ではフェイスブックなど情報が飛んでくる仕組みもあるし、こちらから情報を見てもらえるような工夫が必要だと思う。たとえば自治連合会のホームページに、そこでしか得られないような情報を載せてみんながホームページを見に行くような仕掛けがあるとよいのでは。

**委員：**(3) ⑦の協働マニュアルについて、協働事例集は市の公共施設で配布はしているのか。

**事務局：**市民センターや各市民館に置いてあるし、ホームページでも公開している。また、まちづくり出前講座などでもテキストとして活用している。

**委員：**せっかくこれまでの事例が載っていて、参考になる良いものだと思うので、もっといい使い道があるとよい。

**委員：**(4) ③地域づくり活動交付金への統合について確認だが、取組み状況に文化振興、社会教育活動、体育振興の3つを統合しているとあるが、これは今現在、各校区に一律に交付されているということでしょうか。

**事務局：**今年度も各校区に一律12万円交付している。平成19年度までは文化課から2万円、社会教育課から6万円、スポーツ課から6万円が出ていたが、各校区がそれぞれの補助金についてそれぞれの担当課に申請してそれぞれ精算するという面倒な手間がかかっており、またその目的にしか使えなかった。それを統合することで、各校区が必要なものに自由に使えるようになった。

**委員：**今後それ以上の統合をしていくということか。

**事務局：**その予定ではあるが、課題に書いてあるとおり、それぞれの補助金は目的が決まっていて、たとえば街路灯を設置する場合、その地域だけに対して補助金を交付するものであり、現在のところ地域づくり活動交付金に統合をするのが難しい。

**委員：**さらに統合する意味やメリットがあまり分からないが、現状で3つの補助金が統合されており、今後はもし必要があればさらに統合するというだけでもいいと思う。

**委員：**(4) ②の校区市民館のコミュニティセンター機能の強化について、地域スタッフがどれだけ活躍するかによってその地域での市民協働の広がりが変わってくると

思う。先ほど地域スタッフが地域の活動で活躍している校区もあれば全然という校区もあるとのことだったが、全体のレベルアップが必要だと思う。地域スタッフへの研修というのは実施しているのか。

**事務局**：今年度についても愛知大学の岩崎先生を講師として、4日間に渡って地域スタッフ全員にワークショップ形式の地域スタッフ研修を行っている。

**会長**：学生を交えて授業という形で実施したが、地域スタッフはどうしても図書室の利用を増やすとか、市民館の管理に主眼があり、なかなかまちづくりや地域活動に目を向けるというのが現状では難しいと感じた。

**委員**：校区市民館のコミュニティセンター機能の強化は大事なポイントだと思う。校区市民館は校区のいろいろな団体が使っており、その人たちをまとめて話し合う場を持つなど、コーディネーター役もやってほしいと思う。

**会長**：現在7校区で独自のホームページを開設しているとのことだが、独自でホームページを作るということはそれだけ情報発信したいということで、それだけ活動しているということだと思うが、何かの講習を受けてホームページを立ち上げようという動きになったような、市民活動を盛り上げようという何らかの活動との連動性はあるのか。

**事務局**：ホームページを立ち上げている校区のうち、住みよい暮らしづくり計画のテーマ特化型の取り組みとして実施した校区もあり、市が支援をしながら立ち上げた。独自に立ち上げた校区も幸校区、二川南校区、富士見校区の3校区ある。

**会長**：この計画の中身については、来年度により深く突っ込んだ議論をしていきたい。

#### 4 その他

※事務局より市民協働推進補助金の応募状況について説明。

今後の審査スケジュールについて、

2月10日（月）頃 企画書を各委員に送付

2月26日（水）事前審査 13時30分～17時00分（予定）

3月23日（日）公開プレゼン 11時00分～17時00分（予定）

#### 5 閉会

平成26年2月26日

議事録署名者

瀬川 千敏 ㊟

惣田 里美 ㊟

## 第5回豊橋市市民協働推進審議会出席者名簿

NO	氏 名	選 任 区 分
1	イワサキ マサヤ 岩崎 正弥	学識経験者 愛知大学地域政策学部教授
2	ウメオカ アイコ 梅岡 愛子	豊橋市自治連合会から推薦 (豊橋市自治連合会常任理事)
3	オオバ ヒロフミ 大場 博文	豊橋市社会福祉協議会から推薦 (豊橋市社会福祉協議会職員)
4	コバヤシ ヨシキ 小林 芳樹	公募 (梅田川フォーラム)
5	セガワ チトシ 瀬川 千敏	公募 (豊橋防災V Cの会)
6	ソウ ダ サトミ 惣田 里美	豊橋商工会議所から推薦 (豊橋商工会議所女性会会長)
7	テラダ ヤスオ 寺田 康生	市民センター指定管理者から推薦 (NPO法人 愛知ネット)
8	ヤマザキ アサノ 山崎 麻乃	国際交流協会から推薦 (CSN豊橋 (愛知大学3年))

### 《事務局》

文化市民部

市民協働推進課 課 長 金子 尚央  
主 幹 中山 久美子  
課長補佐 小久保 雅司  
主 査 味岡 達也  
主 査 吉田 節子  
主 査 中澤 浩英  
主 事 鈴木 啓靖  
主 事 山口 知沙世